

第 6 章 滝遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高 9 ～ 12 m 前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 250 m、東西 500 m 以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976 年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、

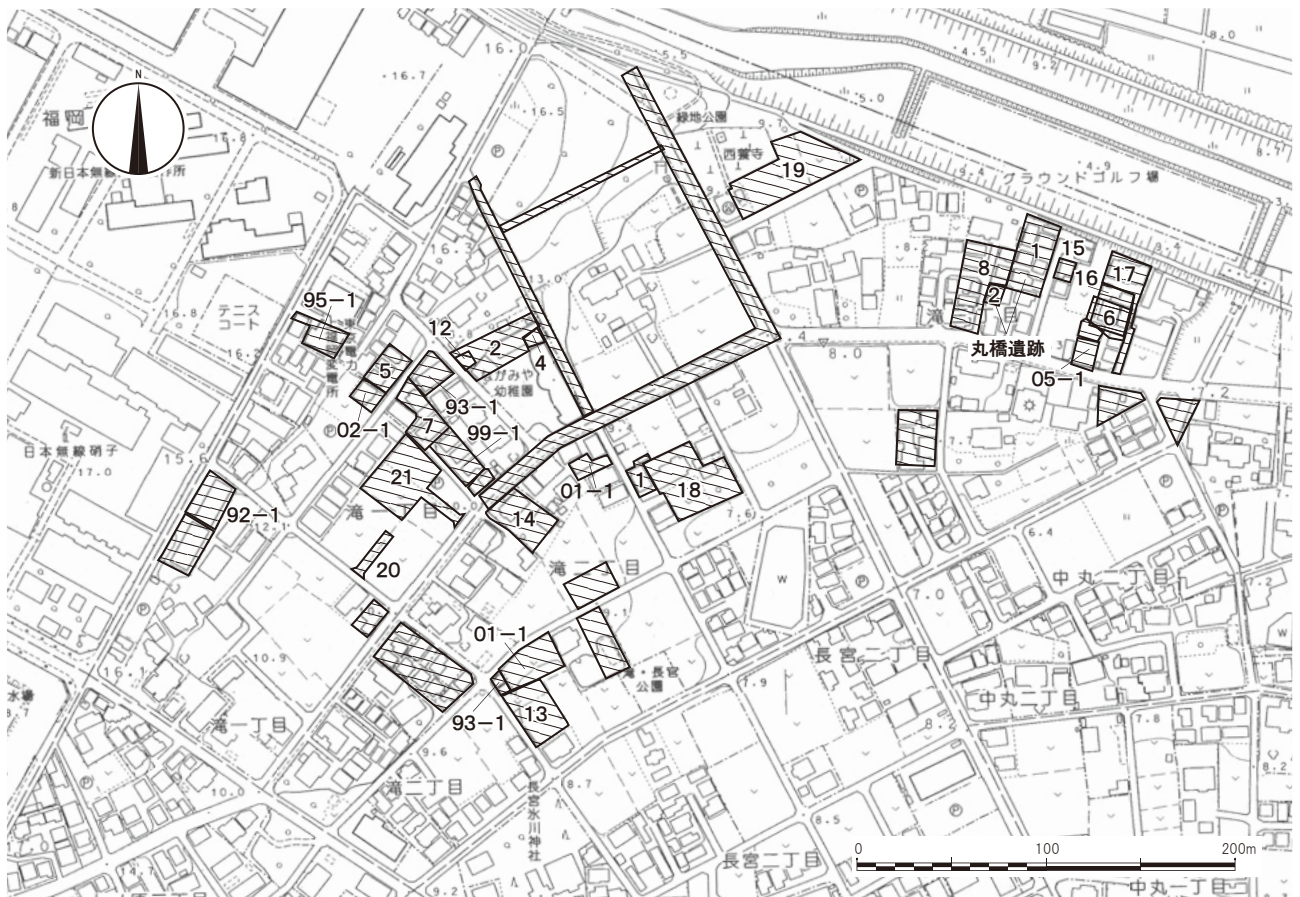
遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡 (1981 年の変更増補で滝遺跡と合併) で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来 35 ケ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第 3・5・9 ～ 11 次調査、1995 年度試掘調査・2002 年度試掘調査 (1) は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡 1・2・5 ～ 7・14・17 地点とする。

遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構 (集石を伴う) である。

II 滝遺跡第 18 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 5 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構な



第 19 図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

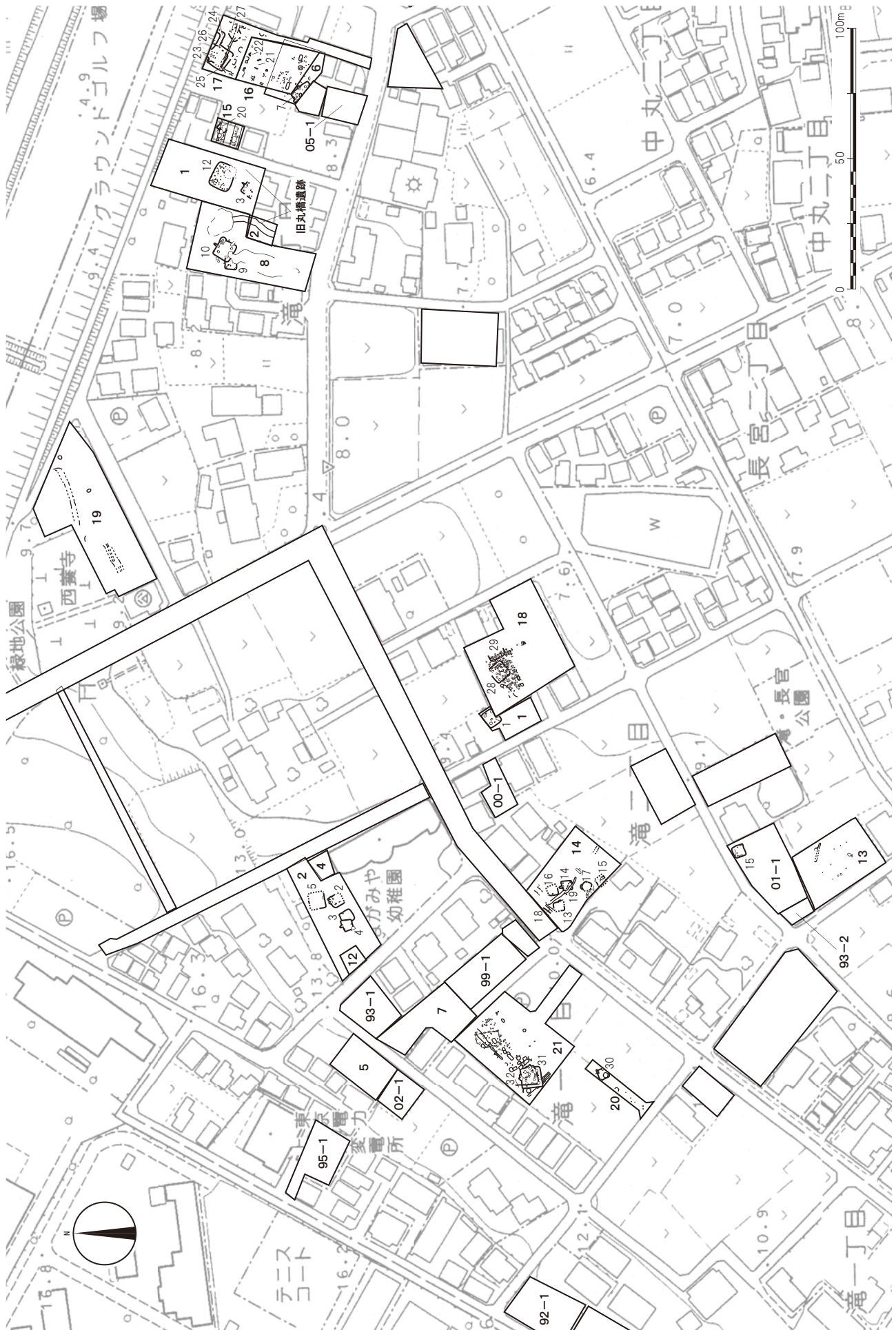
第 13 表 滝遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書	備考
丸橋1次	滝3-3-77～81	(1976.6.26~27) 1976.7.24～8.12	543	建売住宅	古墳前期住居跡1・後期住居跡1	上福岡市遺跡調査報告書	丸橋遺跡は滝遺跡へ統合
丸橋2次	滝3-3-13	1978.7.26～8.6	210	住宅建設	古墳前期土坑1、現代溝1	埋蔵文化財の調査(Ⅰ)	
1次	滝2-6-11	1978.10.2～13	129	住宅建設	住居跡1、土師器	埋蔵文化財の調査(Ⅰ)	
2次	滝1-4-2	1979.4.15～5.7	278	幼稚園7～8	住居跡5、周溝、土坑、長簾、土器	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)	
3次	滝1-4-15	1980.6.27～7.3	76	住宅建設	権現山遺跡1地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	権現山遺跡へ変更
4次	滝1-4-15	1980.7.7～12	105	住宅建設	遺構なし、平安土師器片	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	
5次	滝1-3-21	1980.7.20～31	330	住宅建設	権現山遺跡2地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	権現山遺跡へ変更
6次	滝3-3-6	1980.11.20～12.2	166	住宅建設	縄文土坑、奈良住居跡2、縄文早期土器、石器、奈良土器他	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	
7次	滝1-1-19	1981.7.30～31	400	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	埋蔵文化財の調査(Ⅳ)	
8次	滝3-3-15他	1983.11.14～26	990	住宅建設	古墳住居跡2	埋蔵文化財の調査(Ⅵ)	
9次	滝1-4-4	1984.5.11～22	466	住宅建設	権現山遺跡5地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	権現山遺跡へ変更
10次	滝1-3-17	1984.6.1～12	363	住宅建設	権現山遺跡6地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	権現山遺跡へ変更
11次	滝1-4-2	1984.6.28～30	33.12	物置建設	権現山遺跡7地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	権現山遺跡へ変更
12次	滝1-4-2	1984.12.22～24	94	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	
92試(1)	滝1-2-14の一部	(1992.7.6～8)	400	倉庫建設	なし	埋蔵文化財の調査(Ⅰ 5)	
93試(1)	滝1-1-4	(1993.4.23～28)	313.08	共同住宅	なし	埋蔵文化財の調査(Ⅰ 6)	
93試(2)	滝2-2-7	(1993.8.25)	99	個人住宅	なし	埋蔵文化財の調査(Ⅰ 6)	
95試(1)	滝1-3-13	(1995.11.27～30)	462	共同住宅	権現山遺跡14地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅰ 8)	
99試(1)	滝1-1-6	(1999.10.21～26)	511.09	宅地造成 (土地分譲)	なし	埋蔵文化財の調査(Ⅱ 2)	
00試(1)	滝2-5-20	(2001.1.23～24)	154.7	個人住宅	なし	埋蔵文化財の調査(Ⅱ 3)	
01試(1)	滝2-2-8	(2001.4.17～20)	519.64	共同住宅	奈良初頭住居跡 1	埋蔵文化財の調査(Ⅱ 4)	
02試(1)	滝1-3-49	(2002.5.29～30)	165	個人住宅	権現山遺跡17地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅱ 5)	
05試(1)	滝3-3-5・3-143	(2005.6.24～27)	350	個人住宅	なし	市内遺跡群 1	
立会	滝1-4-1・26・27	(2006.4.15)	2,492	幼稚園	なし		
12	滝2-5-3の一部、 5・4の一部	2007.2.6	472	個人住宅	なし	市内遺跡群3	
13	滝2-2-6	2007.10.24～11.1	737.7	共同住宅	焼土範囲2箇所、ビット8	市内遺跡群4	
14	滝2-5-11・17	(2007.11.8～19) 2007.11.20～12.6	692	分譲住宅	住居跡7軒、溝3条、井戸1基、須恵器、土師器	市内遺跡群4	
15	滝3-3-84	(2009.9.2～14) 2009.10.23～11.6	100	分譲住宅	8世紀住居跡1軒、井戸1、土坑8、ビット20、須恵器、土師器、紡錘車	市内遺跡群7	
16	滝3-145	(2009.12.2～14)	434	宅地造成	ビット3	市内遺跡群8	
17	滝3-3-6、3-144	(2010.5.6～6.18)	331	分譲住宅	奈良平安時代住居跡5軒、井戸1、土坑4、溝2、集石	市内遺跡群10	
18	滝2-6-4、6-6	(2011.6.6～13) 2011.6.14～7.14	1164	分譲住宅	古墳時代住居跡2軒他、土師器、近世陶磁器等	市内遺跡群14	
19	滝3-4-2	(2011.10.17～24)	1,277.16	分譲住宅	溝2、陶磁器等	市内遺跡群14	
20	滝1-8、1-9	(2012.5.9～11)	124.45	道路築造	住居跡1軒、時期不明井戸、土坑、ビット	市内遺跡群12	
21	滝1-1-7、 1-26、1-31	(2012.5.11～21) 2012.7.17～8.25	1,176.25	共同住宅	奈良平安時代鍛冶炉付住居跡1軒(H31)・奈良平安時代住居跡2軒(H32、H33)、掘立柱建物跡、井戸、溝、土坑、ビット、須恵器、土師器、鍛冶関連遺物他	市内遺跡群12	
22	滝1-1-40	(2013.7.30)	114	個人住宅	なし	未報告	
23	滝1-3-5の一部	(2014.2.12)	371	個人住宅	なし	未報告	
24	滝1-1-8の一部	(2014.7.16～18)	222.8	分譲住宅	奈良平安時代と見られる土坑2、ビット2	未報告	
25	滝1-2-4・32	(2014.7.17～8.26)2014.9.8～10.31	2,804	宅地造成	8世紀住居跡4、井戸4、土坑3、溝2、ビット多数	未報告	

※埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

第 14 表 滝遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

新 住居 番号	旧 調査 年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模 ()は残存 又は推定値	炉 竈：K	設置 壁・炉位置	カマド・炉規模		周溝	主軸 方向	時期	備考	文献
1	1978	第1次1号住居	5/6	隅丸方形	640×(580)×40	炉	中央 西寄り	115	70	○	S－55－W	4世紀前半	4本主柱欠、方形貯蔵穴110×95×40	埋蔵文化財の調査Ⅰ
2	1979	第2次2号住居	ほぼ完掘	正方形	(460)×470×45	K	北	(100)	106	○	N－32－W	7世紀前半	焼土住居、方形貯蔵穴62×55×45	埋蔵文化財の調査Ⅱ
3	1978	丸橋第1次3号住居	2/3	正方形	(510×470)×15	K	北東	210	102	○	N－38－W	7世紀前半	焼土住居、(4本主柱欠)	上福岡市遺跡調査報告書
4		第2次3号住居	完掘	方形	(480×460)×15	—	—	—	—	○	—	9世紀前半		埋蔵文化財の調査Ⅱ
6	1979	第2次4号住居	ほぼ完掘	長方形	南北340×東西380～ 415×30	K	北	160	110	○	N－14－W	8世紀前半		埋蔵文化財の調査Ⅱ
5	1979	第2次5号住居	3/8	(正方形)	(490)×610×60	—	—	—	—	○	不明	8世紀前半	竈は調査区外未調査	埋蔵文化財の調査Ⅱ
—	1980	第3次5号住居	1/5	不明	(260×270)×30	—	—	—	—	○	不明	4世紀前半	権現山遺跡1号住居跡に変更	埋蔵文化財の調査Ⅲ
7	1980	第6次7号住居	1/3	正方形	620×(250)×12	K2基	A竈：北 B竈：西	115×90 122×90		○	N－52－E N－37－W	7世紀前半	建て替わり、不整形 貯蔵穴175×95×20、 床面焼土範囲有	埋蔵文化財の調査Ⅲ
8	2001	2001年度範囲確認 調査第15号住居跡	完掘	方形	400×400×	K	北	不明	不明	○	不明	(8世紀前半)	今後15号住居跡から8号 住居跡に名称変更	埋蔵文化財の調査24
9	1983	第8次9号住居	2/3	隅丸方形	(500)×470×20	炉3	中央北 西寄り	60×40、(35)× 32、40×32		○	—	4世紀前半	焼土住居、床面硬化 範囲2ヶ所	埋蔵文化財の調査Ⅵ
10	1983	第8次10号住居	完掘	正方形	690×660×15	K	北東	215	125	○	N－52－E	6世紀前半	4本主柱欠、方形貯蔵穴(80)×75×35	埋蔵文化財の調査Ⅶ
11	1984	第10次11号住居	完掘	隅丸方形	445×(380)×35	K	北	115	95	○	N－5－W	6世紀前半	権現山遺跡に変更	埋蔵文化財の調査Ⅶ
12	1978	丸橋第1次 12号住居	ほぼ完掘	隅丸長方形	980×770×20	土器 隅炉	北部	140	100	○	N－54－W N－36－E	4世紀前半	床面焼土点在	市史史料編第1巻
13	2007	第14次13号住居	1/2	方形	370×370×45	K	東	90	65	○	N－36－E		貼床	市内遺跡群4
14	2007	第14次14号住居	4/5	(長方形)	385×(380)×202	K	北	171	82	○	真北	8世紀前半	比企型坏多数出土、貼床	市内遺跡群4
15	2007	第14次15号住居	1/3	不明	(370×-)×20	—	—	—	—	—	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
16	2007	第14次16号住居	1/4	不明	(250×170)×40	—	—	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
17	2007	第14次17号住居	1/3	不明	(344×360)×102	—	—	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
18	2008	第14次18号住居	1/5	不明	(297×270)×30	—	—	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
19	2008	第14次19号住居	1/5	不明	(450×-)×350	K	北	(85)	(82)	—		8世紀前半～	14号住居より新しい	市内遺跡群4
20	2009	H20号住居	2/3	隅丸長方形	370×350×398							8世紀		市内遺跡群7
21	2009	H21号住居	一部	不明	285×(135)×—	K	東							市内遺跡群8
22	2009	H22号住居	一部	不明	—									市内遺跡群8
23	2010	H23号住居	プラン	長方形	595×700×27	K	北				N－46－W	8世紀	H24、H25住居より新	市内遺跡群10
24	2010	H24号住居	プラン	(方形)	590×(265)×30							8世紀	H23、H26住居より古、H25住居より新。	市内遺跡群10
25	2010	H25号住居	プラン	長方形	810×700×12						N－46－W	7世紀	H23、H24住居より古	市内遺跡群10
26	2010	H26号住居	プラン	(方形)	450×(110)×40							8世紀	H24住居より新	市内遺跡群10
27	2010	H27号住居	プラン	方形	420×400×10									市内遺跡群10
28	2011	H28号住居	完掘	隅丸方形	660×630×18.2	炉		165	110		N－34－W	4世紀後半		市内遺跡群14
29	2011	H29号住居	1/2	(隅丸長方形)	290×648×18.2							4世紀後半		市内遺跡群14
30	2012	H30号住居	4/5	方形	410×390×5	K	東			○	N－75－E	9世紀		市内遺跡群12
31	2012	H31A号住居	完掘	方形	780×770×50	K	北・東	95	130	○	N－92－E	8世紀前半		市内遺跡群12
31	2012	H31B号住居	完掘	方形	640×640×50	K	北	135	170	○	N－2－E	8世紀前半	鍛冶炉	市内遺跡群12
32	2012	H32号住居	一部	(方形)	—×—×25								保存のため未調査	市内遺跡群12
33	2012	H33号住居	一部	(方形)	—		北				N－0－E		保存のため未調査	市内遺跡群12



第20図 滝遺跡遺構分布図 (1/2,000)

III 滝遺跡第 19 地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より 2011 年 9 月 2 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は 2011 年 10 月 17 日から 24 日まで行った。幅約 1.5 m と 3 m のトレンチ合わせて 8 本を設

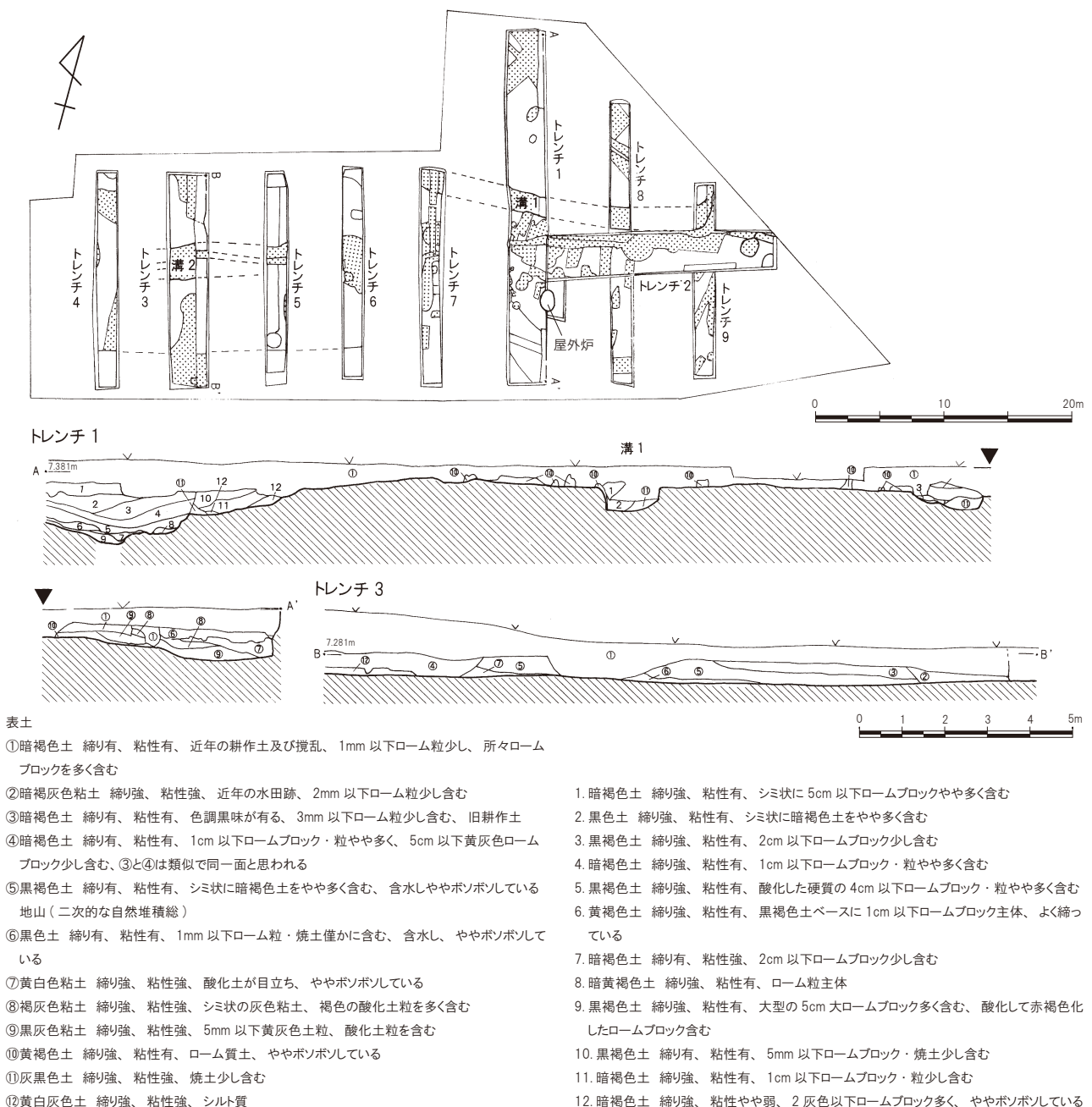
定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。結果、時期不明の屋外炉、土坑、井戸、溝等を確認したが、遺構とは確認されなかったため、慎重工事とした。

地表面から遺構確認面までの深さは 30 ～ 100 cm である。

旧石器時代の確認調査は行っていない。

第 19 表 滝遺跡第 19 地点溝一覧表 (単位cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝 1	「U」字形	150	-	55	
溝 2	浅い「U」字形	49～61	10～14	38.9	



第 30 図 滝遺跡第 19 地点遺構配置図 (1/500)、土層 (1/150)

(1) 遺構と遺物

【屋外炉】縄文時代の早期の炉穴に類似するが時期は不明である。平面形態は楕円形で、規模は 165×110 cm、底径 25×20 cm、焼土範囲 65×50 cm、深さ 23.2 cmである。

【溝 1】東西方向に延びる溝 1、溝 2 としたものは、覆土層の観察から近世以降とした。詳細は第 19 表の

とおりである。

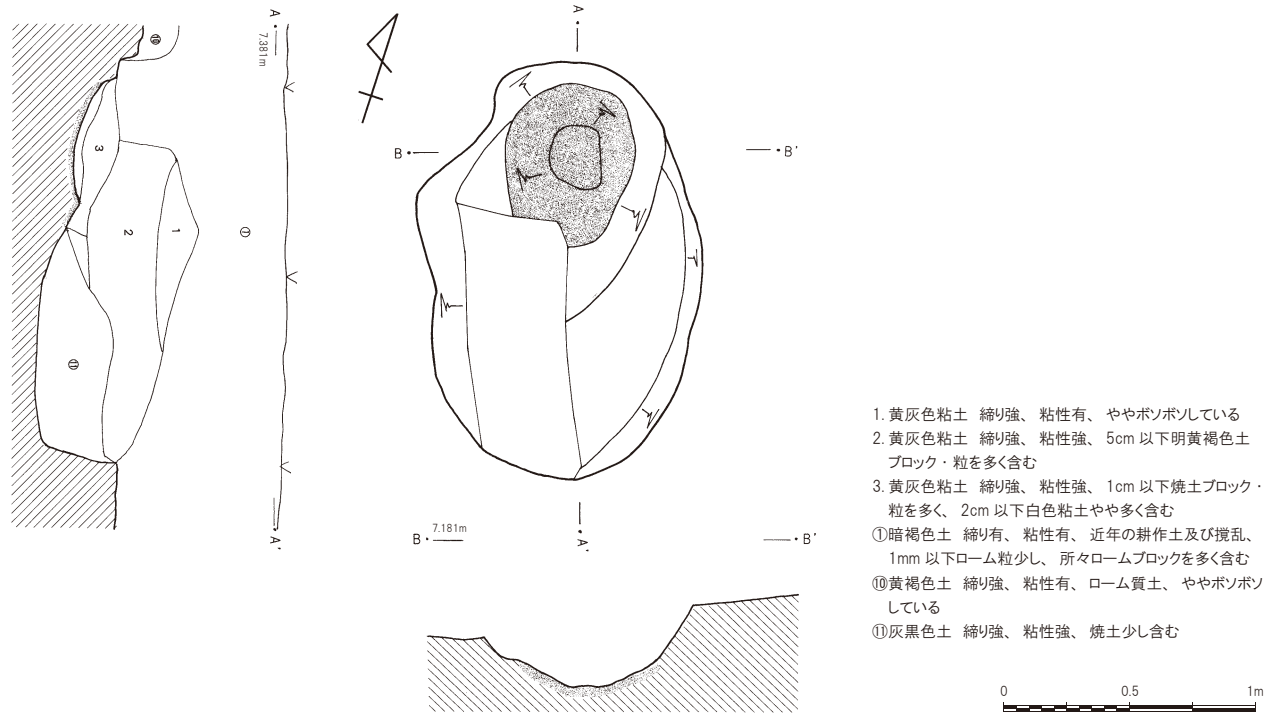
【出土遺物】(第 31 図 1～6)

遺物は溝 1 の覆土層と遺構外から出土したもので、図化出来る物を掲載した。詳細については第 20 表のとおりである。

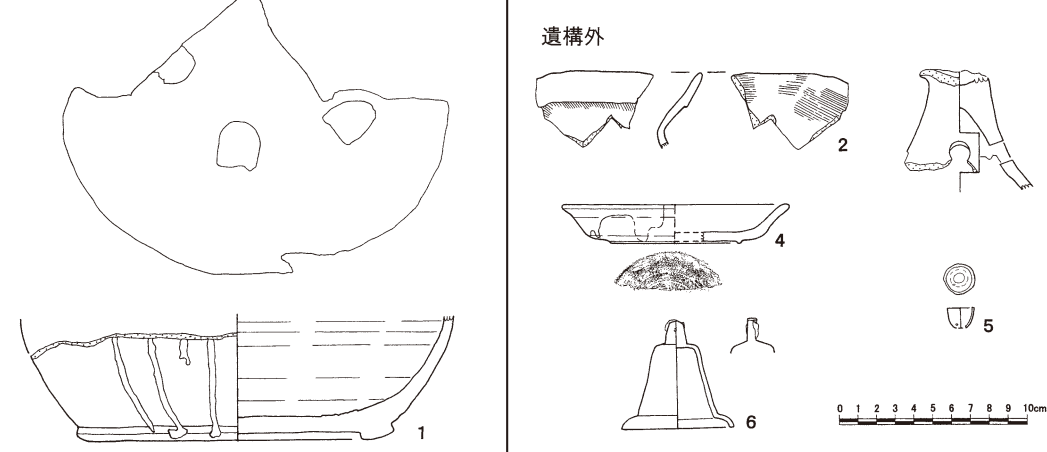
第 20 表 滝遺跡第 19 地点出土遺物観察表 寸法単位 :cm () 付きは推定値

掲載 No	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	溝1	陶器/甕	-	(12.7)	1.040	轆轤成形/鉄釉・黒釉流し/見込に目痕3箇所残存	瀬戸・美濃	1770～1860年代
2	表土	土師器/壺	(11.3)	-	0.493	折り返し口辺/内外ハケ目	-	古墳時代中期
3	トナリ5	土師器/器台	-	3.464～6.508	(6.2)	脚穿孔3箇所/外へう磨き	-	古墳時代前期
4	トナリ8	陶器/皿/志野皿	(12.1)	(6.7)	2.1	轆轤成形/長石釉	瀬戸・美濃	1590～1660年代
5	トナリ2	金属製品(銅)/煙管雁首	(1.5)	(0.55)	-	重量:2.45g/火皿部のみ残存/火皿径1.5cm/材の厚さ1.5mm	-	17～18c.
6	トナリ7	金属製品(銅)/鐘	6.049	2.290～6.049	5.8	重量:90.93g/吊り部に鉄錆固着/舌の装着部は欠損	-	-

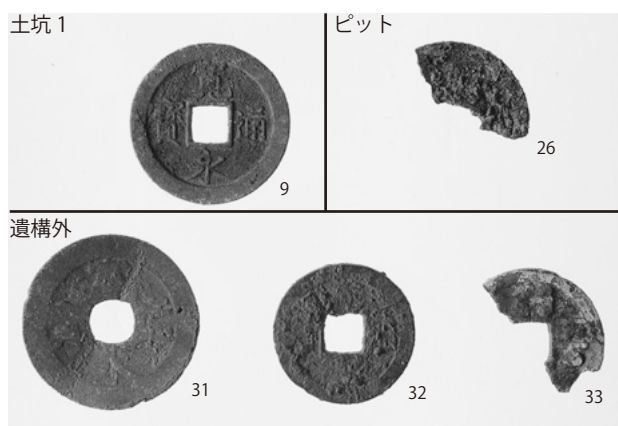
屋外炉



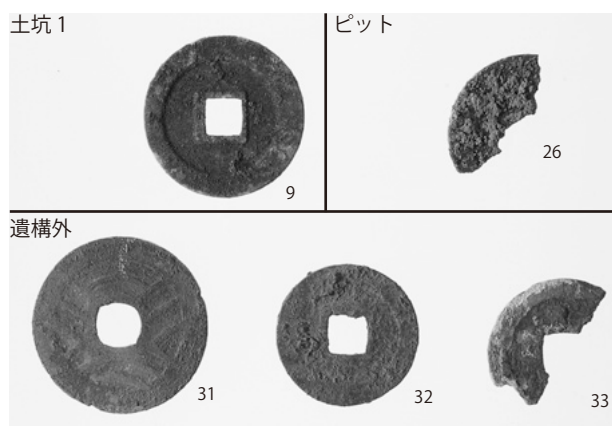
溝 1



第 31 図 滝遺跡第 19 地点屋外炉 (1/30)、出土遺物 (1/4)



滝遺跡第 18 地点土坑 1、ピット、遺構外出土遺物表面



滝遺跡第 18 地点土坑 1、ピット、遺構外出土遺物裏面



滝遺跡第 19 地点調査風景



滝遺跡第 19 地点トレンチ 1



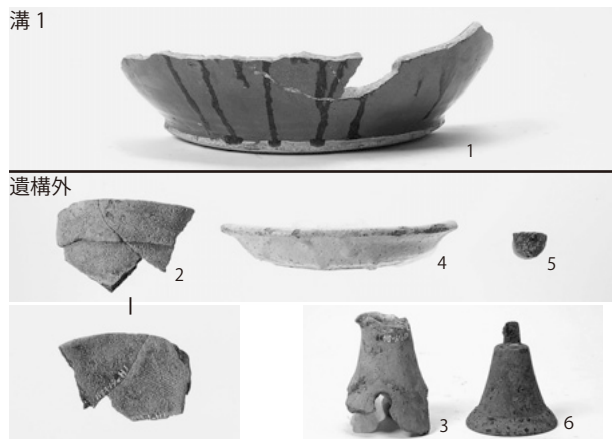
滝遺跡第 19 地点炉穴



滝遺跡第 19 地点トレンチ 2



滝遺跡第 19 地点トレンチ 2



滝遺跡第 19 地点溝 1、遺構外出土遺物